

酒田コミュニケーションポート（仮称）整備基本計画（案） 【概要】

基本理念

**知（地）のアリーナ** ～ヒト・モノ・コトが行き交い、多様なコミュニケーションが創出され、知（地）的好奇心がインスパイアされるみんなの居場所～

- 市民の暮らしの質（QOL）の向上
- 酒田の価値向上

基本方針

学び、成長する場	・地域を知り、学び、好きになる。 ・市民の知的好奇心に応え、支援し、暮らしを豊かにする。	交流の場	・日常のライフシーンに応える。 ・市民も、観光客も寛ぎ、交わる。
情報発信の場	・庄内地方、酒田らしさを積極的に発信する。 ・明確な情報が拡散、口コミで広がる。	子育ての場	・親子で気兼ねなく、安心し、利用できる。

アクションプラン  
（イメージ）

◆「知」のライブパフォーマンス

- 東北公益文科大学まちなか講座
- 日本海総合病院ヘルス・メディカル講座
- 著作者や酒田ゆかり人のミニトーク
- ライブラリアンによるお薦め本紹介
- 慶応義塾大学先端生命科学研究所まちなか講座 など



◆「地」のライブパフォーマンス

- 駅前マルシェ
- 食べマルシェ（酒田フレンチ・酒田のラーメン）
- 各地伝統芸能ストリートライブ
- ジオパーク、日本遺産関係まちなか講座 など

ライブラリーセンター

- ④自分のスタイルにあった読書空間、居心地の良い空間の提供
  - ・静かな場所、BGMのある空間、少しにぎやかでも良い場所等
  - ・飲みものの持ち込み可能
- ⑤地域を知り、好きになる郷土愛を育むサービス
  - ・本市の歴史、文化、人物、自然等の情報発信
  - ・光丘文庫所蔵資料の一部展示等による情報発信
- ⑥児童・子育て世代へのサービスの充実
  - ・児童の調べものに対する支援
  - ・子育て世代にやさしい空間づくり
- ⑦酒田の玄関口としての案内情報の強化
- ⑧学校図書館との連携の強化 ・学校図書館への支援
- ⑨分館、東北公益文科大学等との連携の強化
- ⑩高齢者・障がい者サービス
- ⑪閲覧・貸出サービス
- ⑫ICT サービス
- ⑬その他 ・文房具物販の可能性検討

(2) 資料収集方針

①計画蔵書数 約 300,000 冊  
(開架約 20 万冊、閉架約 10 万冊) を目標

②収集のポイント

- ア 市民の財産となる地域の資料・情報の収集
  - ・地域の歴史・文化・産業・教育等、市民の財産となる資料・情報を画像や映像も含め幅広く収集

ライブラリーセンター

- ・交流都市や観光案内に資する資料、ガイドブック等の収集
- ・鳥海山・飛鳥ジオパークに関連する資料の収集の強化
- イ 多様な市民ニーズに応える、新鮮で豊富な資料・情報の偏りない収集
  - ・教養及び生涯学習のニーズ対応のため、人文科学・社会科学・自然科学の各分野にわたり偏りない収集
  - ・国際交流、インバウンド対応、英語教育の強化等に対応するため、英語資料の充実の検討
- ウ 青少年、20代若者向け資料の充実
  - ・スポーツ、ファッション、音楽、芸術等の資料の充実
  - ・調べ学習に必要な資料や、学校図書館の蔵書を補完するような資料を、学校図書館と連携しつつ幅広く収集
  - ・将来の進路を考えるうえで参考になる資料の収集
  - ・漫画の収集
- エ 新聞・雑誌の充実
  - ・新聞・雑誌の充実による寛いで時間を過ごせる場所づくり
  - ・主要全国紙から東北地方・山形県内の地方紙等の幅広い収集
  - ・外国語新聞の収集
  - ・小学生新聞や中高生新聞の収集の検討
- オ 一般図書
- カ 乳幼児・児童図書
- キ 高齢者・障がい者向け資料
- ク 視聴覚資料
- ③ 資料の保存 ・適切な保存

ライブラリーセンター（延床面積 3,000 m<sup>2</sup>基本）

(1) サービス、整備方針

- ①学びたい、知りたいに応え、地域課題の解決への支援を担う知の拠点
  - ・各種講座の実施、レファレンス機能の向上
  - ・地域・市民の課題解決（まちづくり、ひとづくり）の支援
- ②若者から高齢者までのあらゆる層の市民が集い、利用し、活動する場所づくり
  - ・パソコン、モバイル端末の利用スペースの充実
  - ・Wi-Fi環境の整備
  - ・積極的な市民活動等への場所提供
  - ・時間帯等の利用者層の違いに応じて可変する場所
- ③市民ニーズ等に的確に対応していくライブラリアンの育成
  - ・チャレンジする ・顔が見える、信頼される
  - ・研修機会の充実による質の向上

### カフェ（延床面積 200 m<sup>2</sup>基本）

- ・市民が気軽に立ち寄れる雰囲気と価格・メニューの設定
- ・地域食材や特色あるメニューの提供の検討
- ・交流、コミュニケーションの創出を積極的に仕掛けるため、ワークショップ講座やイベント等の実施
- ・夜にアルコール提供を可能とするなど、時間帯、利用者層の違いに応じたサービスの提供
- ・ライブラリーセンター等の施設内へのテイクアウトサービス
- ・貸出前の資料を持ち込みや、飲食しながら読書できる場所

### 観光情報センター（延床面積 100 m<sup>2</sup>基本）

- ①観光コンシェルジュの配置、養成
  - ・観光のおもてなしとして、酒田の魅力、観光に精通した観光コンシェルジュの配置、養成
- ②市民団体等との連携
  - ・既存団体等との連携した運営を推進し、活動団体が観光情報センター内で活動できる環境づくりや、活動内容のPR等の実施
- ③情報発信機能の強化
  - ・本市の観光モデルルート、まちなか観光（まち歩き）、イベント等の情報発信（オリジナル・ストーリー付加等）、回遊性向上
  - ・ソーシャルネットワークサービスによる情報発信
- ④土産品販売の検討
- ⑤インバウンドへの対応
  - ・英語が話せるスタッフを配置し、外国人観光案内所（カテゴリー1～2）の併設
  - ・Wi-Fi環境の整備
- ⑥その他
  - ・観光客用のコインロッカーの設置
  - ・観光用自転車の設置

### 広場（延床面積 1,000 m<sup>2</sup>基本）

- ・酒田の玄関口（まちのエントランス空間）として、ふさわしいランドスケープ（景観）の形成
- ・市民のハレの場、多彩なイベントの場として積極的な活用
- ・あらゆる世代が、憩える、潤いある屋外空間として一部の芝生化の検討
- ・防風対策、融雪装置等、気候性に配慮した整備

### 駐車場（200台基本）

- ・回転効率、適正な施設管理を考慮した利用基準の設定
- ・酒田コミュニケーションポートだけでなく、酒田駅周辺地区への来街機会の創出に資する運用
- ・最初の2時間までは一律無料をイメージして今後具体化
- ・EV充電器の整備の検討

### バスベイ

- ・酒田駅周辺のバス停の集約
- ・安全で快適に、バスを待つことができる環境づくり
- ・観光情報センターなど、施設内に誰でも見やすい時刻表、案内表の整備

### その他

- ・駐輪場の整備
- ・3階屋上の用途の今後の検討（屋外テラス、イベント用、子どもの遊び場等）
- ・年に一度の酒田コミュニケーションポートまつり（仮称）の開催

### 施設計画

- (1) 施設全体の留意事項
  - ・ライブラリーセンターの持出し防止ゲート設置付近にカウンターを設けるなど利便性への配慮
  - ・施設配置は、駅との動線、施設間の動線、移動しやすさに配慮
  - ・機能間の連携や、すみ分けに配慮したわかりやすいゾーニング
  - ・民間施設を含めた再開発エリア全体との連携を意識した計画
  - ・民間施設と役割分担した災害時における一時避難施設（帰宅困難者用）としての機能
  - ・ライフサイクルを考慮し、建設コストと維持コストの最適化
  - ・各機能間の動線上の雨対策（シェルター）
  - ・気候性（冬季の風雪等）への配慮
  - ・ユニバーサルデザインへの配慮
- (2) 地域産業支援基本方針に基づく整備の推進
  - ・地域産業支援基本方針（H28.4策定）に基づく地域産業の振興（地元産材の活用など）
- (3) 施設各機能の計画の留意事項
  - ①ライブラリーセンター
    - ・書架間隔は1,800mmを基準とし、柱間隔は整数倍を基本
    - ・書架の高さは、子ども用は1.5m程度、大人用は2.1m程度を基本
    - ・休館日や開館時間外に資料が返却でき、自動車でアクセスしやすい位置へのブックポストの設置
  - ②カフェ
    - ・外からも利用できる計画の検討

管理運営計画

(1) 開館時間及び休館日

①ライブラリーセンター

- ・多様な世代、層が集えるよう、現在の閉館時間の延長
- ・週一回程度の休館日の設定
- ・ICシステムの効果的運用による図書整理期間の短縮

②カフェ

- ・開館時間は、ライブラリーセンターとの相乗効果、相性に配慮
- ・休業日は、観光客の玄関口・駅前には不足している飲食機能を補うという性格等から、観光情報センターの休業日と同じ

③観光情報センター

- ・開館時間は、他市（特に広域観光圏となる秋田市、新潟市）を参考に設定
- ・開館時間以外の来館者に対し、ライブラリーセンターのカウンターや隣接する民間施設でも案内ができるよう連携方法の協議

④広場

- ・積極的な広場の活用促進（イベントへの貸出し等）を基本とし、ライブラリーセンターの開館時間等と同じ
- ・休業日は、にぎわい創出に繋げていくため年中無休

⑤駐車場

- ・自動化により、24時間営業、年中無休を基本

◆イメージ

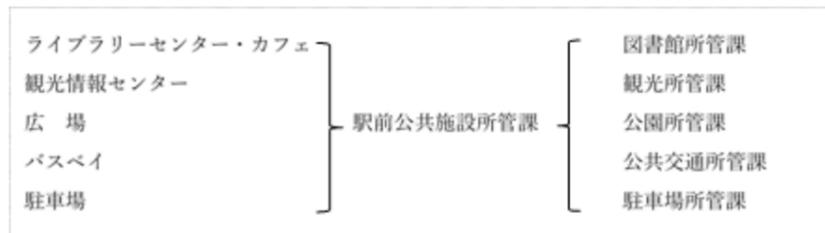
施設区分	開館時間		休館・休業日
	月～土	日、祝	
ライブラリーセンター	9:00～21:00	9:00～19:00	毎週1日、図書整理期間6日以内、12/29～1/3
カフェ	9:00～21:00	9:00～19:00	12/31～1/2
観情センター	9:00～19:00	9:00～19:00	12/31～1/2
駐車場	24時間	24時間	年中無休
広場	9:00～21:00	9:00～19:00	年中無休

(※) 利用状況や市民ニーズに応じて、柔軟な見直しや運用の実施

管理運営計画

(2) 運営組織

- ・所管課を一元化した管理体制を敷き、効果的・効率的な運営実施



(3) 運営形態

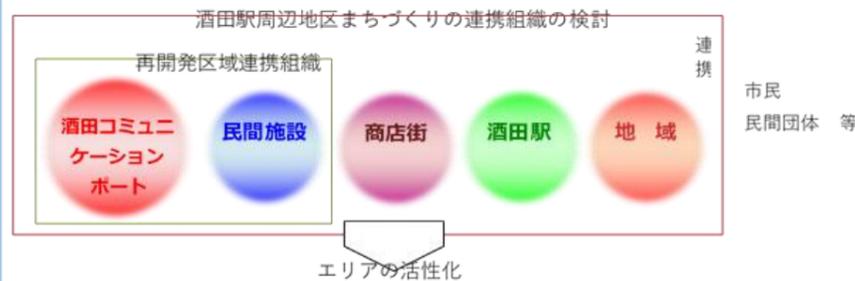
- ・民間の運営ノウハウの導入や図書館ボランティア、観光ガイド協会などの市民団体等との協働推進

(4) 事業計画及び評価

- ・毎年の事業計画及び目標の達成状況に関する評価の実施

(5) 民間施設、周辺関係機関等との連携（エリアマネジメント組織の検討）

- ・再開発区域内の民間施設との連携組織や駅前商店街、酒田駅、地域コミュニティ等との連携組織の検討



人材の確保及び育成

- ・専門性、ホスピタリティ、チャレンジ、人を大切にする人材

市民とともに歩み、成長していく施設づくりを目指して

- ・市民参画型の施設づくり

事業スケジュール

- ・基本設計 平成28年度～平成29年度
- ・実施設計 平成29年度
- ・建設工事 平成30年度～平成31年度
- ・開館準備 平成31年度～平成32年度
- ・開館 平成33年4月頃